

長野高専後援会 長野支部だより

〈発行責任者〉
倉嶋茂宏
〈編集〉
後援会編集委員

平成二十二年 度

支部総会開催される

六月十九日(土)長野第一ホテルにおいて、平成二十二年 度長野高専後援会長野支部総会が会員皆様のご出席をいただき、盛大に開催されました。

倉嶋茂宏支部長、水島俊明副支部長の新役員が承認された後、学校側から来賓としてご出席いただいた大島校長先生、前田教務主事、戸谷学生主事の各先生方から学校の近況や、学生の学校での様子などお話し頂きました。総会では平成二十一年度の事業報告及び会計報告、平成二十二年 度の事業計画案及び予算案が満場一致で承認されました。

本年度特別講演としては、ラーチマネジメントリサーチ代表・長野高専客員教授の村岡正一先生に「ものづくりと高専卒業生」と題した講演をして頂きました。

大島 学校長 挨拶

本日は後援会の長野支部総会にお招きいただきましてありがとうございます。

皆さま。日頃より沢山のご支援と協力をいただいております。厚く御礼申し上げます。

さて、昨年夏から半年間市立長野

高校空き校舎をお借りし、一年から三年の教室の改修工事をしました。あとは図書館工事を終えますと一通りの耐震改修工事が終了します。次の課題として寮の増築に力をいれ、女子の留学生受入を可能にしたいと思っています。これからも学生達とのびのびと気持ち良く学生生活を過ごせるよう環境づくりに努めていきたいと思っておりますので、ご理解ご協力をお願いします。

今五年生は就職活動真つ盛りです。だんだんと産業界は持ち直しの動きが見られる中で、雇用面は厳しくなっています。長野高専は全人教育を目指して努力しており、学力面、人付き合いの面で力をつけることが基本中の基本です。それがきちんとできていれば就職にしろ、進学にしろ目指す方向に進めると考えます。低学年の学生においては補習をしつかりとやり、成績不振にならないよう早い段階から努力をして欲しいと思います。また入学後どうしても別の分野に進みたいと願う学生への柔軟な進路指導等も考えていく必要があると思っています。

今企業は自ら企画し開発する力のある開発型の技術者を求めています。高専も開発型技術者を養成するため

に実験実習時間を多く準備していません。グローバル化する経済、高度化する機械の扱い等に優れた高度な開発型人材がますます求められます。

長野高専は地域企業と連携をし、ものづくりコンテストなどを活用した教育方法を工夫、そして専攻科を充実していきたいと考えています。専攻科は企業からも大変期待されており、地元産業界に優れた技術者を供給する面でも貢献しております。これからももっと優れた人材に入学してもらえよう目指していきたいと思っております。

以上日頃考えていることを申し述べさせていただきます。今後ともご支援よろしく申し上げます。



学 校 情 報

教務主事 前田先生

私からは、教務関係の学校の様子



本年度の入試は、一月二三日推薦・二月二日学力選抜

と今後の予定をお話します。

の日程で実施されました。来年度の県立高校前期選抜は各高校の裁量により、高専と競合する長野高校・長野吉田高校等は行わないようですので、高専にとって良い傾向かと思えます。合わせて、ご近所やお知り合いで中学生のお子さんをお持ちの方に、高専の良さをPRして、志願者の増加にご協力をお願いします。

本年度の学事暦は大きく変わります。夏休みが二週間ずれ、八月第一週まで授業・試験があります。これは、当地区のすべての高専が夏休み前に前期を終わらせているため、学生会や先生方からの強い要望があり変更しました。一番の問題は、八月上旬の暑さ対策です。電子情報工学科と電子制御工学科の四・五年生の教室にはエアコンがありませんので、エアコンのある教室で授業できるように検討する一方、暑さに負けず我慢するという対応を考えています。六月九日～十一日に前期中間試験が実施されました。本年度は学事

暦の関係で、中間試験が四日間から三日間、期末試験が六日間から五日間の日程としましたが、来年度は再検討したいと思います。また、四月に実力テストを実施し、上位者は学生玄関に貼り出しております。

前期の公開授業を五月二四日(月)～二九日(土)に行い、耐震改修後の新しい校舎や広くなった教室を見ていただきました。昨年は五十名ほどでしたが、土曜日に一・二年の学級懇談会も開催したため二百名以上の参加者があり、受付が大変混雑しご迷惑をお掛けしました。次回は受付の方法を検討します。尚、後期は十一月十六日(火)～二十日(土)の五日間を予定しています。

補習は、昨年度後期に一年生各組五名選抜し実施しました。三年～専攻科の学生がTAとして毎週月曜日／物理・金曜日／数学を指導し、かなりの効果がありました。今年度は、七月から一年生・二年生を対象に実施します。

一日体験入学は七月三日(土)に実施予定です。中学校一三校から生徒・保護者・先生六一名の参加者が見込まれ、最近では保護者の参加が増加傾向です。また、今年も夏休み中に一年生による母校訪問を計画し

ています。出身中学校へ一人ずつ訪問し、高専の様子を話してもらいます。

四年生は、夏休み中に実務訓練Ⅱインターンシップを行います。学科により違いますが一週間～二週間、企業等で実習をします。

十一月十日～十二日は、二年生が研修旅行で北陸方面に行きます。同時に、三年生は日帰り二日間の企業現場研修が行われ、四年生は二泊三日で県外企業の現場研修が行われます。

最後に、日頃より長野高専にご支援・ご協力を頂きありがとうございます。

長野高専の生活指導

学生主事 戸谷先生



皆さんこんにちは、学生主事を務めています戸谷と申します。私

からは進路、課外活動、学生生活全般について順を追って説明させていただきます。

学生支援については授業料等の免除がございます。ご承知のとおり

一年生から三年生までは無料化となっております。四年生以上は通常どおりの授業料となっておりますので授業料の免除は四・五年生を対象に行い、昨年度と同じくらいの割合で授業料免除の方を決めさせていただいております。

進路については、就職が今年是非常に厳しい状況です。リーマンショックの時は既に決まっていたので影響はなく、またその次の年も予想よりも良かったです。本年は二〇〇八年度をピークに考えますと、六十三%くらいの求人数です。ただし二〇〇八年度は年度末の最終数値で、六十三%は今現在の数値です。さらに今年の特徴があり、例年ですと進学と就職の割合が六対四くらいで進学希望者が多いですが、本年は就職が多くて五十二%、進学が四十八%となっております。就職が多くなった年はここ数年ありません。特に機械工学科は四十四名中三十名が就職希望者です。さらに多かったのは、電気電子、環境都市工学科でした。

電子制御、電子情報工学科は例年どおり進学希望者が多いです。現在はまだ若干は残っていますが、ほぼ例年並みの進捗状況で決まっていると思います。何が一番大事かと言うと、

毎年言っていますがコミュニケーション能力です。不採用だった理由に、面接時に「志望動機が言えない子がいる」「積極性が足りない」と言う事です。SPIの試験結果が悪かったと言うコメントもあり、例年ですと面接時の態度が関係しますが、さらに厳しくなってきた状況です。日頃の訓練が必要だと思えますので引き続き指導して行きます。ご家庭でもコミュニケーションを図って頂き、進路について四年生は当然ですが、三年生も考えて頂くようお願いいたします。出来るだけ早めに進めて行くことが重要だと思います。今年度から進路支援室を正式に設け、進学、就職の情報を全部取り入れています。インターネット上のコスモスから企業等の求人情報も調べられるようになっていきます。今年さらには受験に行った先輩の報告書を閲覧できるように致しました。進学は受験が遅れていて決まっている人数も多くありませんが、良好だと思っています。進学の方も早目に準備して進めています。学生が第一志望に合格しています。昨年度はほぼ一〇〇%の進学率でした。

課外活動については非常に活発に取り組んでいると思えます、八七一

名が何らかの部活動に入っています。が年々減ってきています。就職等にも有利だと考えられますので積極的に参加してほしいと思えます。工嶺祭につきましても一〇名を超える役員がおり非常に活発に進めています。耐震改修工事もほぼ終わりましたので是非ご覧いただきたいと思えます。

学生生活全般については例年どおりです。交通安全、心のケア、健康問題等、各学年で講習会、講演会等を催させていただき啓蒙活動をしております。交通安全については人身事故もなく良かったと思っています。今年も引き続き学生に啓蒙して行きたいと思えます。



特別講演者の紹介



本日特別講演をお願いした村岡先生は、長野高専の機械工学科を一九七〇年に卒業、その後産業界を務められた後、平成一八年、企業に対するコンサルティング活動を行う「ラーチマネージメントリサーチ」を設立して代表に就任され、現在では県内外を問わず多くの企業のコンサルタントとして活躍されていらつしやいます。

また、平成一九年からは長野高専の客員教授を務められており、更には長野高専同窓会の会長としてもご活躍されたとお伺いしております。本日は「ものづくりと高専卒業生」と題しまして、ご講演いただきま

ご紹介いただいた村岡です。長野高専三期生として卒業後、県内の企業に就職し、現在はコンサルティングの仕事をしています。長野高専の卒業生を企業に受け入れ、その中で卒業生を見てきましたし、また、息子も十年ほど前に長野高専を卒業しましたので、後援会員としての経験もあります。

本日は私が高専生としてどのような教育を受けてきたか、ものづくりの現場で求められているものは何か、それらと高専の教育の関わりをどのように考えたらいいか、ということについてお話ししますが、実は、その答えを私は持っていません。皆さんが考えるヒントになればいいと思ってお話をさせていただきます。

高専のOBは、卒業生同士の連帯感が強い。これは長野高専の卒業生間だけではなく、全国五〇高専卒業生の間で仲間意識が強い。また、自立心が強く、いい意味でなまなめ的に群れない。ただし、心配な点は、私たちの時代に比べて留年が少なくなったこと。高専生は大学入試という人生に一度しかないような修羅場を経験していないため、社会的にかなりのハンデがある。これを補うの

は留年制度であり、私たちの頃は留年しないように先生に胡麻を搦ったりして、ある意味いい社会勉強になった。また、真面目過ぎることも心配。今の世の中は真面目が必ずしもいいこととはならない。これは技術屋の欠点であるが、車のハンドルもブレーキもあそびが必要であるように、人生にもあそびが必要。

現在の日本の製造業の現状は、製造は中国に移行しているが、技術は日本にあり、技術者の働く場はまだある。鋳物や表面処理等マニュアル化できない職人の技術は一九九〇年代に一時期中国で行うようになったが、品質の良いものを作るため、また日本に戻ってきている。品質管理等の管理技術も日本は優れたものを持っている。

ものづくりの現場は人材が育ち難い社会に変化している。終身雇用制度の崩壊により、先輩が後輩に教えることが極めて少ない、自己責任社会となった。また、CADのようにコンピュータ、ITの発達により仕事は楽になったが、部下が図面を書いている横で上司がチェックすることもできなくなり、マイナスの面も出てきている。更に右か左か（〇か

一〇〇か）といったプライオリテイー思考により、失敗が許されない社会風土になっている。今の世の中は企業が技術者を教育してくれない。

これからの時代、技術者に求められるものは、空から鳥のようにものを見て、蟻の目で問題解決をする（着眼大局着手小局）こと。これにより、物事の本質を見抜く能力、お手本の無いことを上手にできる能力、問題発生の構造が分かる能力、品質とコストなどのように一見矛盾することを両立できる能力、技術者としての倫理観を持つことができる。このようなことが必要となる。

最後に良い仕事をするために必要なもの（七か条）は、野心（大志）、執着心、知識、楽観的、論理的思考、美的感受性であり、残り一つは考えて欲しい。

学校はこれらを醸成する場を提供するものであり、一つ一つをブラッシュアップしていくのは個人。与えられるものではなく、自分で勝ち取っていくものであり、これが生き抜いていくということ。

今日お話ししたことをヒントにお子さんの人生を考えて欲しい。

支部長挨拶



長野支部長

倉嶋茂宏

本日はお忙しい中、たくさんの皆様にご出席いただきありがとうございます。

長野支部で昨年行った行事と今年の事業計画を提案させて頂きますので、ご意見を賜りたいと思います。

私共長野支部は、四月六七名の新入会員をお迎えし、総勢三三〇名になりました。本日は、八〇名を超える方のご出席をいただきありがとうございます。学校への期待を含めてのご出席ではないかと思えます。今回と学年別懇談会のみ、先生方をお招きしてお話を伺えますので、子供たちとの話題作り情報収集の場にしていただきたいと思えます。また、議事終了後には、長野高専OB村岡正一先生の特別公演がありますので、是非お聞きください。

本日は、限られた時間ではありませんが、皆様にとつて有意義な時間となりますよう、よろしく願いいたします。

前年度役員の皆様

5年間

大変ご苦労さまでした。

- 支部長 長崎 夫与志
- 会計 丸野 寛美
- 会計監査 村松 恵子
- 編集委員長 原田 泰

編集後記

後援会長野支部の情報はインターネットのホームページでもご覧いただけます。そちらも是非閲覧していただきますようお願い致します。

長野高専後援会長野支部は
「<http://www13.plala.or.jp/nctkna-gano.htm>」です。

また、長野高専ホームページ「<http://www.nagano-nct.ac.jp/>」からリンク集で見えることもできます。

- 編集委員長 寺島 隆一
- 編集委員 早川 昇
- 山岸 徳子
- 尾方 定雄
- 佐久間 保子